

リスクテイキング行動尺度の作成(1)

項目の選定と信頼性・妥当性の検証

森泉慎吾¹⁾ 白井伸之介¹⁾

(¹⁾ 大阪大学大学院人間科学研究科)

キーワード：リスクテイキング行動，尺度，信頼性・妥当性

【背景と目的】 リスクテイキング行動を規定する一因であるリスク傾向(risk propensity)に関する研究は数多くなされているものの(e.g., Wang, Kruger, & Wikle, 2009; Hatfield & Fernandes, 2009), 個人のリスク傾向を把握できる一般的な尺度は日本に少ない。日本における研究例としては小塩(2001)の大学生向けのリスクテイキング行動尺度(以下, RTBS-U)があるものの, この尺度の信頼性・妥当性はあくまで大学生に限定される。よって本研究では, 様々な年齢層, 職業の回答者を対象にし, 個人のリスク傾向を測定できる一般的な尺度を作成することを目的とする。

【項目候補の作成, 選定および信頼性の検証】

項目候補の作成: 日常多くの人に関係すると考えられるリスクテイキング行動やそれに関する態度について, 交通に関わる場面, 身体健康に関わる場面, 金銭・ギャンブルに関わる場面, その他日常場面ごとに区別して, 計 43 項目作成し, リスクテイキング行動尺度とした。以下, 質問項目の選定および信頼性・妥当性の検証を行った。

方法: 16 歳から 66 歳までの 374 名(男性 259 名, 女性 112 名, 不明 3 名)に質問紙調査を行った。なお, 回答者の平均年齢は 26.74 歳(SD=12.63) 職業は高校生(36 名) 大学生(179 名), 消防学校学生(75 名), 会社員(84 名)であった。作成した項目について, 「あなた自身にどれくらい当てはまるか」という問いに対し 5 件法 (1. 全く当てはまらない~5. 非常に当てはまる)で回答を求めた。

結果および考察: 得られた結果に対して主因子法による因子分析を行った。スクリープロット規準等により, 4 因子を採用し, 再度これらの因子に対してプロマックス回転を行い, 因子負荷量が 0.3 以下の項目が削除されるまで再度, 回転を行った。なお, 複数の因子に渡って 0.2 以上の負荷量を持つ項目は削除した。Table 1 は因子分析の結果である。

結果より, 因子負荷量の高い項目に注目し, 第 1 因子はギャンブルに関連する「**ギャンブル行動**」, 第 2 因子は状況によって変化しやすいと考えられる行動に関連する「**状況的行動**」, 第 3 因子は状況に左右されない個人の貫いた信念や価値観に関連する「**確信的行動**」, 第 4 因子は安全や防犯といった事前の安全確保に関連する「**安全行動**」と命名した。これらの信頼性を検討するために, クロンバックの係数を算出した。結果, 第 1 から第 4 因子の係数は, 順に .81, .69, .63, .62 となり, 全ての因子について一定以上の信頼性を持つものとなった。以上の手続きによって得られた尺度を Risk Propensity Questionnaire(以下, RPQ)と名付けた。

【妥当性の検証】

目的: RPQ の基準関連妥当性の検証。

方法: 19 歳から 24 歳の大学生 30 名(男性 15 名, 女性 15 名)に対して質問紙調査を行った。平均年齢は 21.1 歳(SD=1.21)であった。また, 基準関連妥当性を検証するために, 小塩(2001)の作成した RTBS-U への回答を RPQ と同時に求めた。

結果および考察: RPQ の評定の平均値を「**敢行得点**」とし, 因子ごとに算出した。また RTBS-U に関しては小塩(2001)に倣い, 「**個人的リスク**」, 「**社会的リスク**」, 「**全項目**」の 3 変数を算出した。従って, RPQ の 4 変数と RTBS-U の 3 変数との関連を検討するためにピアソンの積率相関係数を算出

した。Table 2 の通り, RPQ のほぼ全ての指標において RTBS-U と有意な, もしくは有意傾向の関連を示した。つまり, RTBS-U の得点が高い, すなわちリスク傾向が高いほど RPQ の得点が高くなること, どの因子に関しても示された。よって, RPQ の基準関連妥当性が示されたと言え, リスク傾向を測定する尺度としての妥当性が示唆された。

【結論および今後の展望】 本研究により作成された RPQ は, 個人のリスク傾向の測定において, 一定以上の信頼性および妥当性のある尺度である。しかし, 本研究では RTBS-U との基準関連妥当性のみしか言及できなかった。よって, 実用化を考慮すれば, さらなる妥当性の検証, 特に, 実際の行動指標と RPQ の関連を検討する必要がある。また, 各因子がどのような特性を持っているのかを明らかにすることで, リスクテイキング行動をより詳細に分類することが可能である。従って今後の展望として, コンピュータ課題などを用いた, 実行動としてのリスクテイキング行動との関連性の実験的検討, および類似した尺度との比較検討などを数多く行うことが必要であると考えられる。

【引用文献】

- Julie Hatfield & Ralston Fernandes 2009 The role of risk-propensity in the risky driving of younger drivers Accident Analysis and Prevention 41 25-35
小塩 真司 2001 大学生用リスクテイキング行動尺度(RTBS-U)の作成 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要心理発達科学 257-265
X.T. Wang, Daniel J. Kruger, & Andreas Wikle 2009 Life history variables and risk-taking propensity Evolution and Human Behavior 30 77-88

Table 1 因子分析結果(項目削除後)

項目	第1因子(=.81)	第2因子(=.69)	第3因子(=.63)	第4因子(=.62)
ギャンブルが好きだ	0.91	-0.01	-0.05	-0.02
大金をギャンブルに吐き込む人の気持ち分かる	0.72	-0.05	0.10	0.07
もし自分の街にカジノがあったら行ってみたい	0.66	0.07	-0.03	-0.04
何事も「賭け」がないとつまらない	0.54	-0.01	0.17	0.00
ギャンブルは有害だと思う	-0.52	-0.04	0.15	0.00
歩行時, 信号のないところで道路を横断する	-0.03	0.66	-0.03	0.08
歩行時, 道路を斜め横断する	0.02	0.62	-0.03	0.05
歩行時, 赤信号でも車が来なければ渡る	-0.05	0.61	0.09	0.01
夜, 無点灯で自転車に乗る	0.05	0.47	-0.08	-0.18
駆け込み乗車をする	0.15	0.35	0.04	0.01
歩きながら携帯電話でメールをする	-0.04	0.34	0.05	-0.15
仮病をよく使う	-0.03	0.04	0.65	0.03
大事な約束を破る	-0.09	0.03	0.57	-0.03
会議など, 重要度の高い決められた時間に遅刻する	0.05	0.10	0.49	0.01
試験勉強をあまりせずに, 試験に臨む	0.05	-0.14	0.49	-0.07
運動など, 日頃体を動かすことが少ない	-0.04	0.03	0.38	0.14
趣味になら, いくらでもお金を吐き込めると思う	0.07	-0.03	0.34	-0.09
家を留守にする際は, 火の元, 戸締りなど安全確認を十分にする	0.05	0.02	-0.05	0.71
ほんの少しの間でも, 留守になる場合は家の鍵をかける	-0.02	0.00	0.02	0.61
帰宅したら手洗い, またはうがいをする	-0.02	-0.07	0.03	0.42

Table 2 RPQ と RTBS-U の相関係数

RPQ	RTBS-U	個人的	社会的	全項目
ギャンブル行動	0.56**	0.43*	0.59**	
状況的行動	0.59**	0.58**	0.70**	
確信的行動	0.11	0.65**	0.53**	
安全行動	0.39*	0.22	0.36†	

** ; p < .01, * ; p < .05, † ; p < .10

(もりいずみ しんご・うすい しんのすけ)